

総務環境委員会行政視察

バイオコークスを活用した地域の熱エネルギー循環の可能性を調査

総務環境委員会では、脱炭素に関する取り組みについて、地域内での熱エネルギー循環が重要であるとの視点から調査・研究を進めています。その調査の一貫として、ALTERNATIVE ENERGY JAPAN株式会社（本社 高山市）を視察しました。同社は、木質資源や農作物残渣、食品残渣、畜産由来資源などを原料とする次世代固形バイオエネルギー「バイオコークス」の製造・研究開発に取り組んでいます。

視察では、木質バイオコークスのほか、牛糞堆肥、トマトの茎・枝、トマトの実、ほうれん草などを原料としたバイオコークスのサンプルを確認しました。これまで処理・廃棄されてきた地域の未利用資源を燃料化し、薪ストーブ、サウナ、ボイラーなどの熱エネルギーとして地域内で活用する循環型モデルの可能性について説明を受けました。

また、牛糞堆肥を活用することで、安定的な原料確保につながる可能性があることや、和牛・乳牛の区別なく利用できる点など、飛騨地域の畜産資源を幅広く活用できる可能性についても学びました。地域で発生する資源を地域内で活かす仕組みは、廃棄物処理や脱炭素の観点からも重要です。

高山市では、小水力発電をはじめとした再生可能エネルギーの導入が進められていますが、脱炭素社会の実現には、電力だけでなく熱エネルギー分野の取組みも重要です。

当委員会では、引き続き地域の熱エネルギー循環に関する調査・研究を進めていきます。



木質バイオコークス

福祉文教委員会行政視察

金沢市「文化の人づくりの推進に関する条例」について

福祉文教委員会では、金沢市の「文化の人づくりの推進に関する条例」に基づく取組などについて視察を行いました。

この条例は、文化を単に保存・継承する対象ではなく、人づくりやまちづくりを支える基盤として位置付けており、市民一人ひとりを文化の担い手と捉え、「担い手」「支える人」「つなげる人」の育成を重視しています。

具体的には、中学生を対象とした能楽やオーケストラの鑑賞、工芸や茶道などを学ぶ「こども塾」、伝統工芸や伝統芸能の後継者育成、歴史的建造物である金沢町家の保存・活用などに取り組んでいました。

また、伝統文化の継承だけでなく、音楽イベントや現代アート、市民による創作活動など、新たな文化の創造や発信にも力を入れており、文化を幅広く捉えている点が印象的でした。

今回の視察を通じて、文化を守るために人を育て、人を育てるために文化を活かすという考え方や、文化の継承と創造の両立を図る取組について学ぶことができました。

本委員会においても、第九次総合計画が掲げる「人づくり」に視点をおき、文化による人づくりと地域の魅力向上につながる施策について検討してまいります。

